

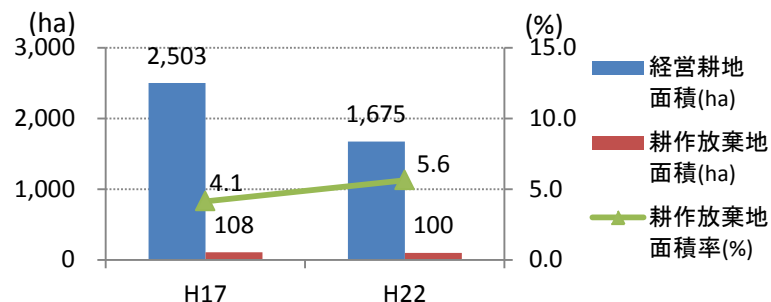
園芸産地の活性化を推進する取組事例 〔福井県あわら市〕

1. 地域農業の状況

- あわら市は、福井県の最北端に位置し、日本海に面している。面積は約117km²で、気候は比較的温暖である。
- 農業形態は、地域に合わせて3つに分かれている。南部平坦地域は圃場の基盤整備が完了した水田地帯。北部丘陵地域は、国営農地総合開発事業により造成された広大な畑作地帯。東部中山間地域は、中山間地域のもつ多面的機能の確保や、地域特性を活かしたそばの産地づくりに取組んでいる。
- 北部丘陵地域では、スイカ、甘藷をはじめとする露地栽培、メロンやトマトを中心とした施設園芸、また、梨や柿の果樹栽培が盛んで、福井県随一の園芸産地となっている。
- しかし、農家の高齢化や後継者不足による労働不足、露地栽培から付加価値を求める施設園芸への栽培形態の変化により耕作放棄地が増加し、産地としての存続も危ぶまれるようになってきた。
- そこで、耕作放棄地の発生を抑制するとともに、一般企業の農業への新規参入を推進することで解消にも努めてきた。



経営耕地面積及び耕作放棄地面積の推移(あわら市)



2. 耕作放棄地解消の取組

取組主体 NPO法人ピアファーム

再生面積 1.76ha (経営面積8.2ha)

作付作物 梨、ブドウ、アスパラガス、人参、甘藷、ネギ、大根等

地区名 さかいほくぶきゅうりょうち
坂井北部丘陵地 地区

取組年次 H22～継続中

販路 直営販売所、直売所、スーパー、ネット販売 等

(1) 取り組みの背景

- NPO法人ピアファームは、平成20年2月に知的障がい者の就労継続B型事業所として設立。
- 平成21年4月から、坂井北部丘陵地内の農地を借り受け、障がい者の所得補償に向けた活動しながら、地域農業振興に貢献していくことを目標に掲げ、果実、野菜の生産販売に取組んでおり、その一環として、耕作放棄地の再生を行うこととした。

(2) 取り組みについて

- 耕作放棄地1.76haを対象に再生作業、土壌改良、営農定着を実施し再生した。
- ピアファームでは、スタッフ13名、メンバー24名の体制により、農業活動を行っており、耕作放棄地再生の他、担い手のいない梨園や野菜農家の農地を借受けることで、耕作放棄地発生未然防止を担っている。
- ピアファームは、平成26年9月までに8.1haの農地を集積し営農しており、さらに平成27年度は0.79haの耕作放棄地再生を含む1.0haの農地集積を計画している。



【再生作業】



【営農状況】



【直営販売所】

活用した支援策

H22～継続 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(土壌改良・営農定着)